

苫小牧市立清水小学校学校だより

清水の子



『未来を創造する
清水の子の育成』

◇学びを広げる子
◇思いやりあふれる子
◇たくましさみなぎる子

第 10 号 令和2年12月25日発行

TEL 33-7285
simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp

ご理解・ご支援ありがとうございました



校長 堀田 稔

戦争が終わって十数年後に生まれ、生まれてから、今までに経験したことがないことが数多く起こり、先が見えずに、戸惑いながら過ごした私の1年間でした。保護者・地域の皆様はいかがだったでしょうか。今年もいよいよ終わりを迎え、新しい年を迎えようとしています。コロナウィルス感染症が世界中で流行したこの年、どこかに言われたとおりに行動し、他人の責任にするのではなく、多くの情報に耳を傾け、取捨選択し、自分で考え、自分の責任で行動することの「大切さ」を改めて学んだような気がします。そう考えている中で「自分で決めることができる」「自立できる」「我慢や努力ができる」子どもを育てる関係の記事を目にしましたので、ご存知の方も多くいらっしゃると思いますが紹介させていただきます。

ヘリコプター パアレンツ、この言葉ご存知ですか（最近だとドローンパアレンツ？）

- 学業での子どもの失敗を防ぐことが、人生に備えるための、最善策だ。
 - 何が何でも、失敗は避けるべきだと思う。
 - 失敗してつらい思いをしないよう、失敗を防いでやるのが親の仕事だと思う。
 - 子どもが失敗したら、すぐに正しいやり方を教えないといけないと思う。
- と考え、子どもの周りをぐるぐる回り、自分が手や口を出すぎて過干渉・過保護でいることに気が付かずにいることから、この名前がつけられているそうです。

メンタルを育てる

たいていの子ども達は、みんな成長の過程で、何らかの失敗をします。宿題を忘れてたり、遅刻をしたり。子ども時代を振り返ってみると、一度も失敗をしない人間はいません。失敗すればイヤな気分になるし、ネガティブ思考や実りのない行動を生む恐れもありますが、立ち上がって挑戦するチャンスにもなり得ます。失敗する前にヘリコプターになるのではなく、失敗した時に「命や身体にかかわること以外は、間違ってもいい、失敗してもいい、子どものうちは、でも、その次が大事だよ」など、次の自分の考えや行動につなげてあげること、前向きなアドバイスをすること、失敗を貴重な教訓に変えることが、大切だそうです。

失敗させるということは、大人が子どもにメンタルの力をつけるチャンスになるそうです。

新年は、神や仏が乗る「神使」と言われる縁起のいい「丑年」です。子ども達が失敗体験から力強く立ち上がり、牛の歩みの如く一步ずつ大人への強い心を育むとともに、一步一步世の中がかつての日常に向かう年になりますことを願っています。

冬休みはクリスマスやお正月など普段よりも多く、家族で共有する時間やふれあいが長く持てる時でもあります。命や身体にかかわらない失敗体験から、多くのことを学び取り、体も大きくなり、心も強くなった子ども達が、また元気な笑顔で新学期に登校してくることを楽しみにしています。令和2年の清水小学校児童、教職員へのご理解、ご支援、ご協力に心より感謝申し上げますとともに、令和3年もよろしくお願い申し上げます。

皆様がより良い年をお迎えしますことを心より祈念いたしております。